

講義名	研究演習 (人)		
講義コード	25208	授業形態	
担当教員	桑原 桃音	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 5時限
		オンライン・コード	SEM250

学部・学科	演習分野
人間社会学部	桑原桃音ゼミナール(家族社会学、文化社会学)

概要説明

【ゼミ紹介】
本ゼミは、卒業論文を書くことを前提に、調査や研究を進めていくゼミです。日本人学生と留学生が一緒に学び、必要に応じてやさしい日本語や多言語(文書のみ)などのリガードを行います。地域の人びとや団体と協力しながら、平和教育や文化・家族・コミュニティに関するテーマを深めていきます。多様な背景を持つ学生が安心して参加できる、開かれた学びの場を目指しています。

【内容・意義】
このゼミは、文化社会学・家族社会学・コミュニティ研究を基礎に、2026年度からはとくに「平和教育の社会学」を中心テーマとして学びます。平和教育では、日本の小学生・中学生向けのやさしい平和教材や絵本、中国・韓国・ドイツ・ベトナム、必要であればゼミ生出身国など世界の平和教育の本などを読み、それぞれの国がどのように戦争の記憶(被害・加害)を伝えているのかを比較します。教育が社会の記憶や価値観をどのようにつくるのかを、社会的に考えます。留学生は、自分の国の平和教育をテーマにすることもできます。日本語が不安な学生のために、やさしい日本語の資料を使います。
また、地域連携として、地域行事「地蔵盆」のお手伝いや調査を行い、地域・コミュニティのつながりを実際に体験しながら学びます。平和教育でもない、でも自分の研究テーマが決まらないゼミ生には、桑原が長年フィールドワークをしている地蔵盆調査を動いています。もちろん、これまで通り家族社会学・メディア研究・若者文化・質的調査など、自分の興味に合わせてテーマを選ぶこともできます。
大学院進学を希望する学生には、自主ゼミで研究計画書の指導、英語の社会学文献の読解(2週間に1回)、卒論指導を通じた研究力の育成を行います。キャリア支援も継続して行います。

【目的】
・日本と世界の平和教育を比較し、社会的に理解する
・読む・まとめる・話す・書く力を高め、卒論につなげる
・地域行事への参加を通して、コミュニティ研究を実践する
・家族・文化・メディアなどのテーマでも質的研究を行えるようにする
・大学院進学希望者は進学に必要な研究力を身につける
・多文化・多言語の学びの場をつくり、留学生も参加しやすいゼミにする

【期間・場所・経費】
・地蔵盆は8月23日前後に実施され、開催場所は須磨区・長田区ですので、交通費はそこまで多くかかりません。
・経費：懇親会費は一年に2-4千円必要です。合宿は2-4年の間に1回だけで、日帰りでのご参加も可していますが、宿泊する人は宿泊費を支払う必要があります。
・資料費は基本的にありません。

【到達目標・成果】
本ゼミでは、卒業論文を書くことを前提に、調査や研究の力を段階的に身につけます。学術的な資料や平和教育教材を読み、内容を整理して説明できるようになります。先行研究を探し、短くまとめ、研究テーマや問題を言葉にできるようになります。調査方法(インタビュー、観察、質問紙など)を学び、研究計画書を書けるようになります。プレ調査(予備調査)やパイロット調査を行い、仮説や分析の方向性を考えられるようになります。さらに、3年生と4年生の夏には、地域行事「地蔵盆」のボランティアに参加し、地域とのつながりを体験します。地蔵盆の活動を記録し、学びとして整理する力を身につけます。研究演習 では、先行研究レビュー・問題設定・調査結果をまとめた「プレ卒論」を作成します。最終的には、大学の規定(20,000字以上)に沿った卒業論文を書き上げます。
留学生や合理的調整が必要な学生には、やさしい日本語などのサポートを行います。

主な卒業論文のタイトル

【卒業論文タイトルを決める際の基準】本ゼミの卒業論文は、文化社会学・家族社会学・コミュニティ研究・平和教育など、社会学の分野に関するテーマを対象とします。メディア分析や地域連携の調査、質的調査法(内容分析・インタビュー・参与観察など)を用いた研究を基本とします。留学生は自国の平和教育や文化をテーマにした比較研究も可能です。

【卒論タイトル(過去5年の一部)】
「推し活」における支出の性差：大学生を対象とした調査結果の分析から
女子校出身者が感じる同性・異性友人との友情形成の違いについて：神戸市内の女子校出身者のインタビュー調査を通して
結婚困難社会の要因とそれに対する結婚観の検討：大学生意識調査をふまえて
デジタルマーケティングの普及と消費者行動のデジタル化の因果関係：善火 #12に着目して
コロナ禍がアニエス・ベリニズムに与えた影響：『櫻川』ユーフォニアム 京都府宇治市を事例として
アイドルマスターは2.5次元アイドルを誕生・定着させたのか：2000年代-2010年代 声優コンサートに着目して
App Storeのアプリケーション・アイコンの色からみるAppカテゴリと色彩との関係性
中内川が学生に伝えたかったメッセージとは：『From Riicho』内容の経年変化の分析
地蔵盆からみる地域と寺院のつながり：須磨区と長田区の寺院を事例に (1席)
懸賞論文入賞論文

教員からの要望

・本ゼミでは、日本と世界の平和教育、文化、家族、コミュニティに関する社会的な学びを深めながら、調査・分析・文章作成・発表を行います。
・読書や文章作成が苦手でも、学ぶ意欲があれば大丈夫です。
・課題を締め切りまでに提出し、ディスカッションに前向きに参加できる学生を歓迎します。
・留学生を幅広く多様なメンバーと協力し、他者を尊重しながら学ぶ姿勢を大切にします。
・平和教育を学ぶための、差別的・排他的な言動をしないことが重要です。
・地域行事「地蔵盆」への参加など、地域連携やボランティアにも関心があると望ましいです。
・卒業論文を書く意欲があり、調査や文章作成に誠実に取り組める学生を歓迎します。
・大学院進学を希望する学生には、研究計画書の指導や英語文献の読解などのサポートを行います(現在、ゼミ時間外で自主ゼミも実施中)。
・書評コンテストや新聞投稿、懸賞論文など、学外への発信にも挑戦したい学生も歓迎します。
・仲間と協力しながら学び、成長していきたい学生に向けたゼミです。

選考方法

【基本方針】研究演習 の選考は、提出された書類、面談、面談前後のメールのやり取りを総合して行います。面談に来ない場合は選考の対象外となることがあります。本ゼミでは、これまで定員を大きく超えない限り、ほとんどの学生を受け入れてきました。面談に来なかった志望者が落選しています(3年に1名程度)。留学生についても、これまで不合格にしたことはありません。安心して応募してください。

【上記の姿勢で選抜していても定員を超える応募があった場合】
1) まず、次の点を参考に選考します。研究したいテーマが、ゼミの分野(文化社会学、家族社会学、コミュニティ研究、平和教育の社会学)と合致しているか、調査や読書、文章作成に取り組む意欲があるか、他者を尊重し、多文化的な学びに参加できる姿勢があるか
2) 1)の条件を満たす学生が定員を超える場合のみ、GPAなどを参考にします。ただし、GPAはあくまで最終的な判断材料であり、応募要件ではありません。
【選考で大切にしていること】
本ゼミは、意欲のある学生を歓迎し、できるだけ多くの学生を受け入れる方針です。

評価方法

・本ゼミでは、授業への主体的な参加、課題・レポート・発表、調査の進捗などを総合して評価します。
・出席のみで評価することはありません。分析対象の資料、先行研究、平和教育教材の読解や調査に誠実に取り組み、他者を尊重しながら議論に参加する姿勢を重視します。課題の締切を守ることも評価に含まれます。
・欠席、課題未提出が続く場合は評価に影響します。
・留学生は、やさしい日本語や英語補足の提出も認め、多文化的な学びを尊重します。
・3年生と4年生の夏に参加する地蔵盆ボランティアへの取り組みも評価に含まれます。地域での活動内容を記録し、学びとして整理できているかを重視します。

評価方法の全文は、PDFでは一部が表示されない場合があります。RYUKA Portal ではすべての内容を確認できます。
・研究演習 では、授業への主体的な参加(30%)、課題・レポート(30%)、授業内での発表(40%)を総合して評価します。課題にはミニレポート、ワークシート、レスポンス、文献検索、テーマ設定などが含まれます。資料の読解や調査に誠実に取り組み、他者を尊重しながら議論に参加する姿勢を重視します。

到達目標・成果物

【研究演習】学術的な資料や調査対象の資料を読み、内容を整理して説明できるようになる。成果物：ワークシート、ミニレポート、先行研究リストと短い要約。
【研究演習】先行研究レビューと調査方法の学習をもとに、研究計画書を書き、プレ調査を行う。成果物：研究計画書、先行研究レビュー、プレ調査・パイロット調査の記録、短い報告。
【研究演習】調査を実施し、分析を行い、先行研究レビュー・問題設定・調査結果をまとめた「プレ卒論」を作成する。成果物：プレ卒論、調査記録、研究の記録シート、研究発表資料、地蔵盆ボランティアの活動記録。
【卒業論文】先行研究をふまえて独自の問いを立て、実証的な調査・分析を行い、論文としてまとめる。成果物：卒業論文(大学の規定により20,000字以上)、卒業研究の要約レポート。

到達目標・成果物の詳細は、PDFでは一部が表示されない場合があります。RYUKA Portal では全文を確認できます。

教員英字氏名	研究室
Kuwabara Momone	研究棟V 5422教室

最終学歴

龍谷大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 単位取得後退学

学位

博士(社会学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

【現在の研究テーマ】
・戦前戦後における配偶者選択に関する歴史社会学的研究
・ティーンズ誌『セブンティーン』における女子中高生の恋愛・性愛言説分析

【主な研究業績】
単著：『大正期の結婚相談 家と恋愛にゆく人々』晃洋書房(2017)
共著：『私』を書くことがもたらした境界の揺らぎ：1930年代『東京朝日新聞』『女性相談』と山田わか回答』『女たちの翼 アジア初期近代における女性のリテラシーと境界侵犯的活動』青木恵理子編、ナカニシヤ出版(2018)
・『1970-1990年代の『セブンティーン』にみる女子中高生の性愛表象の変容』小山静子、赤枝香奈子、今田絵里香編『セクシュアリティの戦後史』京都大学学術出版会(2014)
(その他の業績は流通科学大学のHPの教員プロフィールを参照)

趣味・特技

趣味は音楽鑑賞、ライブ鑑賞です。洋楽、邦楽、韓流、ジャンルに関係なく何でも聴くようにしています。好きなアーティストや楽曲を教えてもらえると小躍りするくらいうれしいです。あと、ホラーゲームとホラーゲームのゲーム実況をみるのが好きです。

所属

人間社会学部 心理社会学科

所属学会

・関西社会学会、ジェンダー史学会、日本家族社会学会、日本社会学会、日本女性学会、日本メディア学会、社会調査協会

専門分野

社会学(おもに家族社会学)、ジェンダー・セクシュアリティ研究、メディア論(おもにメディア史)

担当科目

社会学基礎、メディア論、キャリア社会学、社会構造論、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ、専門基礎演習、研究演習、研究演習、卒業研究

備考

・Teams、Zoom、レスポンス、OneDriveを使用できるように準備しておいてください。
・年に1-2回、個人面談を行います(オンライン対応可)。
・中間発表会はハイブリットで行います。ZoomやTeamsの会議機能を用いてオンラインで参加できるようにしてください。

やむを得ない欠席の場合の対応について。欠欠届と信ぴょう性書類を提出し、授業1週間前後に連絡すること。発表担当の欠席はできるだけ他のゼミ生に交代してもらうこと。補習回(全員参加)ができてしまうため。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし